

中野香織先生、

仕事と服装の関係について 教えてくださいますか

subject 1

仕事着の 変遷の歴史とは？

今の日本で仕事着として思
い浮かぶのはなんとと言っても、
男性のスーツだと思います。

19世紀中葉のイギリスで生ま
れたラウンジスーツに行きつ
きます。現代のものに似た形
です。当時は時間と格によっ
て服を着分けており、昼間の
正装としてフロックコート、
昼間の準正装としてモーニン
グコート、夜間の正装として
燕尾服を着るのがマナーでし
た。それ以外の、くつろぎの
場で着る服がラウンジス
ーツだったので。くつろぐため
の服が仕事着に発展していっ
たのは興味深いことです。

19世紀といえば、階級社会
のイギリスで貴族と新興中産
階級が一緒に働くようになった
時代です。みんなが同じよ
うなスーツを着れば、それま
でのように服装による階級の
違いが分からなくなり、階級
を気にせずに仕事をするこ
とができる。この便利さからス
ーツが仕事着として定着して
いきました。

フロックコート → 現代のスーツ



19世紀には昼間の正装は
フロックコート、準正装
はモーニングコート、夜
の正装は燕尾服、と時間
帯で着分けていた。

ビジネススーツの主流が黒な
のは、その流れがあるからで
はないでしょうか？

装が日本で一般的になるのは、
第二次大戦後です。男性の仕
事着としてスーツが定着した
のもこの頃でした。

人と接することが必要とされる
ビジネスの世界では、
身だしなみや清潔感などは最低限のマナーです。
でも、それだけでは何だかつまらない。
自分らしいワークスタイルを見つけてのと同様に、
自分らしい仕事着のスタイルも見つけたいものです。
仕事着の歴史を学びながら、
自分のスタイルを見つけましょう。

服飾史家・明治大学特任教授
中野香織(なかの かおり)
ファッションの歴史から最新の
モード事情までを網羅し研
究、執筆。東京大学大学院博
士課程単位取得満期退学。著
書に『紳士の名品50』他多数。

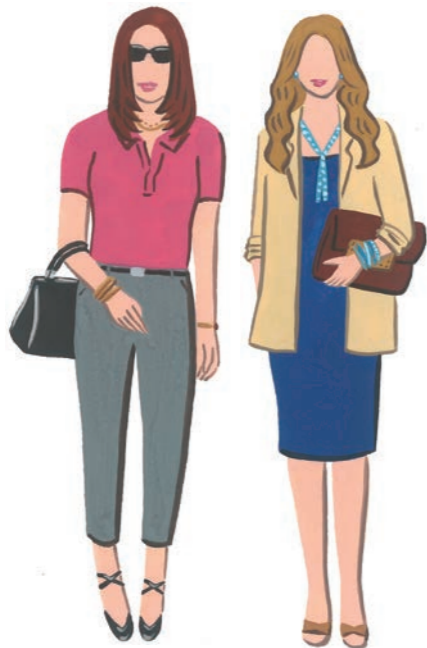


subject 2

就活中の女性もスーツですね。 それを女性の仕事着の 観点から見ると？

女性のスーツに関しては、
1920年代にチャネルが機
能的なスーツを作り、60年代
にサンローランがタキシード

ルックをデザインして女性が
公にパンツスーツを着ること
を可能にしました。80年代に
なると、ジョルジョ・アルマ



働き方が多様であるように、仕事のときの
服装も本来、多様なはず。その点は海外の
女性が進んでいる。ワンピースと上着のセ
ットアップやパンツスタイルも見られる。



黒いスーツが日本の仕事
着の定番。1980年代に
は就活で赤いスーツの女
子学生がいたとか。

1920年代にチャネルが機
能的なスーツを作り、60年代
にサンローランがタキシード

advice

就活生や 若いビジネス パーソンの 仕事着についての アドバイスを。

日本のビジネスの世界では、
男性も女性も、とかく「無難
なスタイル」が推奨されがち
ですが、そうした中でも好印
象を残す服装表現をすること
はできるはずですよ。

大事なのは、シャツやブラ
ウスの首周りはゆるすぎず、
きつすぎず、ピッタリのサイ
ズのものを探すことです。許
される環境であれば、ポケッ
トチーフを挿すなども良いで
しょう。

1920年代にチャネルが機
能的なスーツを作り、60年代
にサンローランがタキシード

海外出張をする際に気をつ
けなければならないのは、国
や地域によるTPOの違いで
す。イタリアはビジネスで茶
色の靴もOKですが、イギリ
スではNG:なんていうこと
がありますから、出張先が決
まったら、まずはその地域の
文化を予習することから始め
ましょう。